

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	重度の介護が必要となっても、最後までホームで支援できるようにとの思いで実践に努めていたが、実態が法人へ伝わらず環境整備ができていない。	利用者の安全、安楽を図り、職員の介護負担軽減のため、法人と協同し、介護しやすい環境整備を行う。	①重度の方の入浴の為の特浴を設置する。 ②重度の方のサービス内容の見直しを行い、適切な介護サービスを行う。 ③居室、リビング等ホーム内のすべてにおいて環境の見直しを行い適切な整備を行う。	1ヶ月
2	36	一人ひとりの尊重、プライバシーの確保ができない	職員全員の介護への認識をあらため、尊厳あるサービスの実施に取り組む。	①職員全員の研修を実施、職員の資質の向上に努め認識を改める。介護の基本、人として、介護を受ける側からの立場にたつて、当たり前の研修から実践する。 ②サービス内容を見直し、あらたにサービス計画書をたて、計画に基づいた、尊厳ある、介護にあたる。	3ヶ月
3	40	重度化する中で、入居者、職員共に、食事が楽しめない状況にあり、改善されないままの状態が続いている。	日々の日程の中で、細部を見直し入居者、職員共にゆったりした食事が楽しめる環境と食事介助の見直しを行う。	①入居者の日課を見直し、職員の休憩の確保を考慮しながら、食事を楽しめる時間配分の検討を行い、よりよい環境の整備を図る。 ②重度の方の介護内容を見直し介助方法、摂取内容を適正に改める。	1ヶ月
4	6	身体拘束をしないケア実践は正しく理解しながら努めているが離室が頻繁な症状の利用者が多く生命に関わる。玄関や門の施錠は避け難く、鍵をかけた状況にある。	利用者の安全が確保され、かつ利用者にとって、へい害にならないことを基本に施錠の運用を模索する。	①運営推進会議での検討を継続し、地域、行政、家族など多くの方の意見を交え、方向性をさぐる。 ②検討会議での結果をとりまとめ行政との話し合いの場をもち、実践方法を具体化する	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。